

芝田 禮二 議員

消防団員の確保は

Q 問 入団者減少の要因とその対策は。

A 答 少子化や就業構造の変化、地域社会への参加意識の低下が、主な理由と考える。対策としては、地域への協力依頼、地域住民の意識啓発を初め、事業所等への協力依頼が必要と考えている。

Q 問 浅羽方面隊の分団統合の考えは。

A 答 地域に根ざした各分団の伝統や歴史もあるが、団員確保の上でも、地域防災力の低下にならない配置統合の検討を消防団と地域住民と協議していきたい。

代替燃料の普及は

Q 問 施設栽培用木質ペレット及びボイラーの普及とその費用助成は。

A 答 浜松市天竜商工会でペレット工場新設に向けて検討が進められていると聞いており、この取り組みとの連携を図っていききたい。また、木質ペレット購入に対する助成は、現時点では難しいが、ボイラー導入に対する助成は、国の補助金があるので、クラウンメロン支所と協議し、普及に努めたい。



消防団による消火栓点検

秋田 稔 議員

障害者施設の補助対象拡大を

Q 問 障害者自立支援法移行に伴い、補助対象事業を拡大しては。

A 答 障害のある成人の月額上限負担額のさらなる軽減と、算定対象所得を、世帯全員から障害者個人に見直すことになっている。また、障害のある児童がいる世帯は、所得上限の引き上げにより、約8割の世帯が軽減措置の対象となる見通しである。

児童養護施設に援助を

Q 問 財政的な支援はできないか。施設所在市として他の市町に働きかけをしては。

A 答 「まきばの家」は、入所者が県内全域からきているため、入所児童に対する独自の支援を本市単独で行うのは難しい。今後とも支援策を検討していきたい。

「夢への一步@WORK袋井（キャリア教育）」の事業拡大を

Q 問 中学生のキャリア教育は、在学中に1度、2年生が3日間実施しているが拡大しては。

A 答 実施日数の増は、事業所の事情、授業日数の確保等の問題がある。今後も日数や回数も含めた職場体験のあり方を研究し、本市の特色ある教育の一つとして定着させたい。



まきばの家